

【事業実績】

映像文化創造都市山形の情報発信力の強化に関しては、隔年開催の山形国際ドキュメンタリー映画祭に合わせて講演会（参加者 30 名）を実施し、参加者からは「他地域と比較して、山形における映画上映が盛んであったことがわかった」と好評であった。また講演会に合わせて実施した山形市における映画上映文化を紹介したパネル展は入館者数が 2036 人にのぼり、2019 年秋に開催された山形国際ドキュメンタリー映画祭において再度実施されることとなった。

多言語による情報発信サイト（<https://my-favorite-things-about-yamagata.com/>）掲載文化施設 8 館、掲載店舗 27 店舗）は、山形市ホテル協会宿泊部会、山形市商工会議所、山形県日華親善協会など、さまざまな団体とコンテンツ制作および広報活動を通じて協働することができた。その一環として台湾で行われた日本旅行誘致イベントでのサイト紹介パンフレットの配布などを実施した。パンフレットは見やすくわかりやすいとの評判を得た。



山形新聞 2020 年 1 月 11 日

していくうえで大変参考になった」との感想を得た。

最後に、一昨年度から本事業を活用して、奥の細道および山寺についての多言語による情報発信とともにやってきた市民団体「奥の細道マイスターの会」は、2019 年 8 月に世界的な写真雑誌であるナショナルジオグラフィックフランス語版の取材を受けた。その結果、2020 年 1 月発売の同雑誌の表紙を山寺が飾ることとなった。このように本事業は着実に成果を上げているといえるだろう。



山形新聞 2019 年 11 月 22 日

また、中核館である山形大学附属博物館はイタリア・ボローニャ大学附属博物館との交流協定を締結し、第一回目の交流事業として山形市と共催で、ボローニャ大学附属博物館のロベルト・バルツァーニ館長をお招きして、大学博物館の役割を考えるシンポジウムを開催した。(2 日間で参加者 91 名) 大学生および市民に、国を越えた交流の重要性とそのなかで博物館が果たす役割について訴えることができた。参加者からも「博物館はグローバルなつながりが重要であることがわかった」「創造都市として今後活動